

はじめに

このたび2016年度の情報化調査の結果をとりまとめました「LS研ICT白書」を刊行いたしましたので、ご報告申し上げます。

情報化調査は、LS研が1978年に設立されて以来、研究活動、セミナー、各種フォーラムや交流会などと並び、毎年実施しており、今年で38回目を迎えます。今回は、157会員から回答をいただきました。ご協力に改めて御礼申し上げます。

本調査では「会員企業におけるICT活用に関する調査」を目的に、従来からの調査項目による定点観測項目、および、今年度のトピックスとして、近年大きな発展を遂げ、身近な技術になりつつあるAI(人工知能)関連技術について、会員団体での検討状況・利用状況について調査を行いました。

情報システム部門としては、引き続きBCPやセキュリティなどリスクマネジメント強化への要請、コンプライアンス徹底のためのICT支援というマスト要件に対応しつつ、永遠の課題であるICT投資コスト最適化といった難しい課題に取り組まなくてはならない状況はますます厳しくなりつつあるようです。

一方、情報技術領域で発生したイノベーションである人工知能については、経営陣から情報システム部門の現場まで非常に関心は高いものの、事業や業務に対してどのように活用していくか、どのような影響があるか図りかねており、情報システム部門としてこの技術にどのようなスタンスで、現場と向き合っていくか模索中の感が強く、まだまだこれからという状況であるようです。

本白書では、このような企業情報システムが今後取り組まなくてはならない事柄に焦点をあて、会員企業へのアンケートという形で可視化し、その傾向をいち早く掴み取りたいと考えております。会員の皆様方におかれましては、今後の情報システム部門のあり方を考えるための一助としていただければ幸いです。

なお、本白書は会員内部でのICT活用に関する情報提供を目的として、会員皆様に限定して配付しております。

LS研では、「Challenging Innovation」をスローガンに掲げ、最先端ICTの利活用による経営革新へ貢献するための活動を展開しております。そして会員企業の成長や個人の成長を目指します。今後とも、皆様のご協力を得て情報化の発展に役立つ情報を提供すべく努力してまいりますので、内容に関する忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただきたく存じます。

最後に、会員各位の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2016年10月

FUJITSUファミリー会LS研究委員会
幹事長 占部 真純
株式会社日本アクセス 常務執行役員